

社団法人 栃木県生産性本部
栃木県サービス産業活性化・生産性向上委員会第2回会合
(第11回全国模擬授業大会プレイベント)

サービス産業・サービス部門の活性化・生産性向上・イノベーションを目指して

—株式会社開倫塾の教育サービス経営品質向上の取り組みとは—

株式会社 開倫塾
代表取締役社長 林明夫

日時：2016年5月28日(土)
14:00～17:30
会場：足利市研修センター

第1部 「卓越した業績(Performance Excellence)」を目指そう

—開倫塾の目指すイノベーションとは—

はじめに

1. 2017年の消費税増税、2020年の教育制度大改革(大学入試改革と学習指導要領改革)を迎え撃つために、開倫塾では2014年度より2016年度までの「第1次3か年計画」をスタート、業務の全面的な見直しと標準化によるサービス産業としての活性化と生産性向上、最終的にはイノベーションの実現を目指して参りました。
2. 2016年度は、その3年目で仕上げの年でありますので、この活動を更に推し進めます。
3. 「第2次3か年計画」は2017年～2019年とし、2020年の教育大改革に向けての最終準備(Plan)期間といたします。
4. 「第3次3か年計画」は2020年～2022年とし、2020年の教育大改革への取り組みの実行(Do)と検証(Check)、修正(Action)の期間といたします。
5. このイノベーションの推進の主体、主役は企業家精神のあふれる社員の皆様です。十分な御理解と御協力、積極的な御提言とその実行を切に希望いたします。
6. この「2016年度版 開倫塾社員ハンドブック」では、開倫塾の現状を踏まえた上で、2016年度に取り組むべき課題をできるだけ具体的に御説明いたします。どうか、ゆっくりと御精読ください。
7. 開倫塾では、発言は自由です。御質問や御意見のある方は、いつでも、御自由にお述べください。どのような御意見を表明なさっても不利益な取扱いは一切いたしません。
8. お読みになりやすいように、QandAの形で書かせて頂きます。

Q1：開倫塾の創業と株式会社の設立はいつですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)開倫塾は「1979年10月」に栃木県足利市百頭町で「創業」されました。
- (2)株式会社開倫塾は「1985年10月」に「設立」されました。
- (3)以来、塾長と代表取締役社長は創業者の林明夫です。
- (4)「本社住所地」は「栃木県足利市堀込町145」です。

Q2：開倫塾の事業内容は何ですか。

- A：(1)事業の内容は、小学校1年生から高校3年生までを対象とする学習塾です。
- (2)栃木県・群馬県・茨城県に60校舎を展開する、「北関東では屈指の本格的進学塾」です。「本格的な進学塾」を目指します。
 - (3)「学校教育で不足する教科教育、とりわけ、進学に向けての教育を補うこと、補うのであれば徹底的に補うこと」が、開倫塾の教育サービスの内容です。

Q 3 : 開倫塾の経営の基本理念は何ですか。

A : 4つあります。

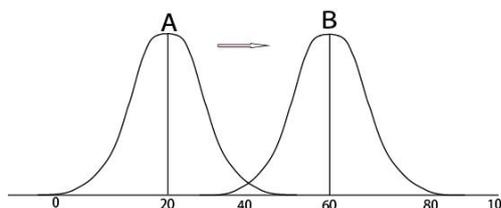
(1) 「顧客本位」

- ①開倫塾では、「顧客」を、「塾生」・「保護者」・「地域社会」と「定義」いたします。
- ②開倫塾では、「一流校」を、「塾生が進学を希望する学校」と「定義」いたします。
- ③「学校成績の向上」と「塾生の一流校 100 %合格」を目指します。

(2) 「独自能力」

- ①「独自能力」を発揮する前提として、経営課題ごとに、まずは「競合比較」、次に「ベストプラクティスのベンチマーク」を徹底的に行います。
- ②開倫塾では「自分以外は皆師」の考えのもとで、3つの「ベストプラクティスのベンチマーク」を積極的に行います。
 - (ア)「社内ベストプラクティスのベンチマーク」(「暗黙知の共有」)
 - (イ)「同業他社のベストプラクティスのベンチマーク」
 - (ウ)「異業種のベストプラクティスのベンチマーク」
- ③「統計的手法を活用」し、「5S」「改善」「業務の見える化」「標準化」「TQM」「日本サービス大賞」「日本経営品質賞」にチャレンジします。
- ④「サービス産業としての活性化・生産性向上」と「イノベーション」に挑戦します。

- ⑤「Joy of work(働く喜び)」
- ⑥「実験」(「仮説」「検証」)
- ⑦ 3ヶ校舎に耐えられる「標準化」
- ⑧研修(OJT、Off JT)システムの構築
 - * 社内研修日本一の企業づくり



- ⑨この P → D → C → A をまわします

(3) 「社員重視」

- ①「社員重視」の中心概念は「empowerment エンパワーメント」です。
 - (ア)英語の「empowerment」には「能力強化」と「権限委譲」の2つの意味があります。
 - (イ)社員一人ひとりの「能力強化」が、活性化と生産性向上、質の高い仕事、雇用の維持・拡大・充実に直結します。「能力強化」を果たした社員には、どんどん「権限委譲」を行います。
 - (ウ)開倫塾は、「社員が自らの潜在能力を自らの力で発見し引き伸ばす企業」を目指します。
 - (エ)経営幹部(部長、SV、ブロック長)、ミドルマネジメント(校長)、社員という役割ごとに求められる能力を示した「共通参照枠(Common Framework for Reference)」の活用をします。

(4) 開倫塾は「キャリア権」推進企業を目指します。

- ①「自分のキャリアを自分の力で形成すること」は基本的人権の1つ、「キャリア権」と考えます。

②開倫塾は顧客である塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、そして何よりも社員の皆様のキャリア形成を全面的に支援する「キャリア権推進企業」を目指します。

(5)「健康経営」に取り組みます。

① 2016 年度より、開倫塾は、社員が心身ともに健康な状態で働くことのできる「健康経営」を推進します。

②産業医のアドバイス・指導の下に、社員の皆様の健康づくりを支援する企業を目指します。

③定期健康診断の充実と最大活用

④定期歯科健診の実施

⑤「健康ライフを考える会」の定期的開催

(6)社会との調和—企業市民(Corporate Citizenship)として—

①「法令遵守(コンプライアンス)」

・内部統制(internal control)のしくみづくり推進

・顧問の弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士、コンサルタントの先生方によるガバナンスの強化

・「耳に痛いことを言う人は尊いと尊敬」「問題点の先送り禁止、絶対禁止」

②「社会貢献活動の推進(CSR、 Corporate Social Responsibility)」

・栃木刑務所への講師派遣

・養護施設の児童・生徒の学習指導

* 学習や進学のお機会格差是正を目指します。

③「社会的企業(Social Enterprise)を目指します。

④社会的課題の解決を目指す「NGO、NPO の活動支援」

⑤「開倫ユネスコ協会」の支援

(ア)2001 年設立。「人間の安全保障(Human Security)の推進」が設立の基本理念

(イ)「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というユネスコ宣言に基づくユネスコ活動の全面的支援を開倫塾は目指します。

⑥オフィシャルスポーツとしてのドッジボールの奨励

(ア)佐野市での開倫杯ドッジボール大会は 17 年目

(イ)開倫杯ドッジボール大会 in 群馬、in 足利の開催。ウィマンズカップも

(ウ)2020 年のオリンピック、パラリンピックの年には、ドッジボールの世界大会か国際大会も企画

Q 4 : 開倫塾の行動目標は何ですか。

A : 2 つあります。

(1)「教え方日本一」を目指します。

①開倫塾では、すべての先生が「自分なりの教え方日本一」を目指します。

* 開倫塾では、教える人を尊敬を込めて「先生」とよびます。

②授業ごとに、「授業の設計」を行い、よく練り上げられた「レッスンプラン」に基づいた指

導を行います。

(ア) レッスンプランには、毎回の授業の到達目標を今日の Can Do(キャン ドウ)、今日の授業のおわりにはこのようなことができるという形で示すことを奨励しています。

(イ) 塾生の自覚を促す 3 分間の「武者語り」の内容をレッスンプランに予め書いておくことも奨励しています。

(ウ) 授業後は「省察(リフレクション)」、その内容を記入した「レッスンプラン」は「先生の成長の記録」です。

③ 「一人模擬授業」と「全国模擬授業大会」で、教え方を向上させ、「自分なりの教え方日本一」を目指します。

(2) 「塾生数北関東一」

① 「教え方日本一を目指す開倫塾を北関東のすみずみに」

特に、学習塾のあまり多くない地域に本格的進学塾を開校し、進学の世界格差是正を目指します。

② 開倫塾のすべての校舎は「地域一番塾」を目指します。

塾生数や合格者が、各学校の 10%が第一目標です。

Q 5 : 開倫塾の経営方針は何ですか。

A : 3つあります。

(1) 「学ぶに値する塾づくり」

(2) 「働くに値する職場づくり」

① 「85歳過ぎまで働ける」職場づくり

② 「出入り自由、フレキシブルな働き方ができる」職場づくり

(3) 「倒産しない会社づくり」

① 「四半期決算」の活用(2011年度より)

② 「財務会計」、「管理会計」、「統合報告(Integrated Reporting)」

③ 社外顧問(教育、法務、会計、税務、労務、情報技術、デザイン、経営戦略など)による「ガバナンス強化」

④ 「経営情報の共有」で、「危機意識の共有」

⑤ 「事業継続計画(BCP)」の見直し

Q 6 : 開倫塾の全社員に共通する業務は何ですか。

A : (1) 「教育業務」…学習指導

(2) 「募集業務」…「募集なくして教育なし」

(3) 「基本業務」…顧客・ビジネスパートナー・社員とのコミュニケーション

Q7：開倫塾で推進していることは何ですか。

A：(1)働く人の主体性、自律性を尊重した「足利流5S」を目指す「開倫5S学校」の本部と全60校舎での開校

- ①「整理」seiri …要らないものを捨てること
- ②「清掃」seisou …掃除すること
- ③「整頓」seiton …ものを決まったところに置くこと
- ④「清潔」seiketsu …①～③の状態を保つこと
- ⑤「躰」shituke …自分から進んで①～④をやること



(2)「学習する組織(Learning Organization)」づくり

(3)「ジャンルトップ戦略」…特定分野、ジャンルでトップを担うこと。戦略的に担い、競争力強化を図ること

- ①「自己学習能力育成・ジャンルトップ」
- ②「読解力育成・ジャンルトップ」
- ③「3大検定・ジャンルトップ」

Q8：開倫塾の社員の絶対的禁止事項は何ですか。

- A：(1)「セクシズム」…性による差別
(2)「エイジズム」…年齢による差別
(3)「レイシズム」…出身による差別

Q9：「開倫塾の教育目標」は何ですか。それに対応する「キー・コンピテンシーズ」(OECD PISAの基底となる能力観)は何ですか。

- A：(1)「高い倫理」…「自律的に活動する能力」(課題山積社会に対応)
(2)「高い学力」…「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」(知識基盤社会に対応)
(3)「高い国際理解」…「多様な集団で交流する能力」(グローバル社会に対応)
(4)「自己学習能力の育成」…(「学習の方法」を身に着けること)

Q10：キー・コンピテンシーズの前提となる2つの条件は何ですか。また、この条件を身に着けるための開倫塾の取り組みは何ですか。

- A：(1)①「学習の方法」(Learning To Learn)を身に着けていること
②「読書による思慮深さ」を身に着けていること
(2)効果の上がる学習の方法として、「学習の3段階理論」を提案
(3)「読書による思慮深さ」を身に着けるために「読解力アップ」を提案
①辞書の活用で「語彙力アップ」を…「意味調べノート」を
②読書の活用で「読書による思慮深さ」を…「書き抜き読書ノート」を
③新聞の活用で「自分で考える力、批判的思考能力」を…「スクラップブック」を

*開倫塾は「NIE(Newspaper In Education)新聞を教育へ」を推進しています。「新聞」を

毎日読むことは、「自分で考える力」、「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着けることに役立ちます。

* 1年に3回、「読解力アップコンテスト」を実施し、「意味調べノート」「書き抜き読書ノート」「スクラップブック」づくりを奨励しています。

Q11：開倫塾の社会的使命(ミッション)、存在意義は何ですか。

A：(1)「塾生の成功の実現に貢献」することです。

①開倫塾では「学力」を「主体的に学ぶ力」と定義します。

②「学力」を身に着けることは「多様な選択肢のある人生を歩むこと」に直結します。「学力」は「人生の成功」に結びつきます。

(2)「地域の教育力の向上に貢献」することです。

①「学力の向上」は「地域の教育力の向上」に直結します。

②「地域の教育力の向上」は「正常に機能する社会の形成」「持続可能な社会の形成」に結びつきます。

Q12：最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾で一番大切な取り組みは、「イノベーションによる競争力強化」と「サービス産業としての活性化・生産性向上」です。

(2)イノベーションは現状否定による「刷新」を意味しますので、まさに競争力強化に直結する「起業」「創業」といえます。起業家精神に満ちあふれたイノベーションの担い手は「企業家」です。

(3)同時に行うべきことは、「サービス産業としての組織の活性化・生産性向上」で、「コーポレート・ガバナンス」の役割が高く、「情報の共有化」「透明性(Transparency、トランスパレンシー)」「説明責任(Accountability、アカウンタビリティ)」「守成」つまり「守り」といえます。「守成」の担い手は「マネジャー」です。

(4)大切なのは「イノベーション」(刷新)つまり「創業」と、組織の活性化・生産性向上を図りながらの「マネジメント」つまり「守成」の2つを同時併行して行うことです。

* 徳川家康が足利学校に出版を命じた、唐の繁栄を築いた太宗の教えを記したリーダーシップの古典、「貞観政要(じょうがんせいよう)」の「創業」と「守成」が参考になります。

(5)この足利学校は、開倫塾の本社所在地である栃木県足利市にあります。開倫塾が最も学ぶべき「宝物」は、まさにすぐ近くに 있습니다。開倫塾のある街の歴史・伝統の中に大切な「宝物」を探し、学び続けたいと存じます。

第2部 「学習の3段階理論」とは

Q1 : 「学習の3段階理論」とは何ですか。

- A : (1) 栃木県・群馬県・茨城県に60校舎を展開する開倫塾の創業者である林明夫塾長が、1979年の開倫塾の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法についての考えです。多くの皆様が学習する上で一番困っているのは、勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。
- (2) 学習を「理解」「定着」「応用」の「3つの段階(ステップ)」に分け、3つの段階それぞれにふさわしい学び方をわかりやすく具体的に例で示した、例示したのがこの「学習の3段階理論」です。
- (3) ①「理解」とは、今学んでいることが「よくわかること」と定義します。
②「定着」とは「『理解』したことを身に着けること」と定義します。
③「応用」とは「『理解』『定着』したことを用いてテストでよい点数を取ること、社会で役立てること」と定義します。
- (4) 大切なことについて1つ1つのことばの意味を「定義」し、ことばの意味の価値を大切にしたいと考えます。

Q2 : なぜ「定義」をするのですか。

- A : (1) 「ことば」の意味について、ものごとの本質とは何かを「価値(大切さ)」「意味」「秩序」の3つの点から考え抜き、できるだけ「定義」付ける取り組みをお勧めします。
- (2) 1つ1つのものごとを行うときには、
①まずは、各々の「価値(大切さ)」をよく理解すること。
②その上で、自分なりに「意味付け」をすること。
③「だから、これはこのように行おう、これは行わないようにしよう」と、自分なりのルール、きまりを決め、「秩序」立った行動をすること、自律的に活動することが大切と考えるからです。
- (3) このように「価値」「意味」「秩序」を大切に考えた上で、「自律的に活動する能力」を育成することが大切です。
- (4) 以上の理由で、ことばの意味を明確にすること、「定義」を大切にすることをお勧めします。
- (5) ものごとに取り組むときには、自分なりの「定義」を考えることを、開倫塾の塾生の皆様に希望します。

Q3 : 第1段階の「理解」とは何ですか。

- A : (1) 「理解」とは「うんなるほどとよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」と「定義」します。

(2)「理解」には、自分一人で学ぶ場合、更には新聞や TV、インターネット、本などを通して教えて頂く場合もあります。自学自習の場合と、他人、つまり先生などから授業などで教わる場合があります。

*もちろん、家族や友人、知人、社会の人々から教えて頂く場合もあります。

(3)「授業中の理解」のポイントは何か。

①手を机の上に置き、先生の目や口もとを見て、一言も聞き漏らさないように、真剣にお話を聞くこと。

②先生の指示に従って積極的に授業に参加すること。

③「必要なことはすべてノートを取る」こと。「ノートを取る」ことができるのは、極めて高い言語能力の1つです。

*私は、日本語ではノートが取れますが、ドイツ語やスペイン語では取れません。これは、日本語でノートを取る能力があるが、ドイツ語やスペイン語ではノートを取る能力がないからです。

④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは、「授業での理解」を著しく妨げます。ですから、できるだけ避けましょう。

⑤授業中によくわからないことがあったら、先生の許可を得て、積極的に質問しましょう。意見があったら、先生の許可を得て積極的に発言しましょう。

(4)「自分で理解」するときのポイント(「予習」、「復習」、「自学自習」のポイント)は何か。

①まず「学習する教材」を決め(「教材決め」)、学校や開倫塾で先生のお話をお聞きするような真剣さで、教材に書き記してある一語、一語を真剣に読み、これはどのようなことかを知る、「理解」する努力をすること。

②教科書などの教材に書いてある語句の意味がよくわからないときには、「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「用語集」、「参考書」などを用いてその意味を調べる。調べた内容は、必ず「ノートに書き写す」こと。「書き写した」ことは、その場で覚えること。

*「意味調べノート」は絶えず1ページ目から読み直すと、「ことばの数」、「語彙(ごい)数」が確実に増え、全教科の学力向上に直結します。

③「計算」や「問題」はすべて自分の力で「ノート」に解いてみる。答えを書いてみる。

④「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が「予習の意味」です。

*「予習」とは「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」と「定義」します。

*「予習」をして、十分に「理解」ができた内容については、次に説明する「定着のための3大練習」を自分の力でどんどん行うことをお勧めします。

⑤授業後、復習として「ノート」を見ながら授業を思い出し、すべての教材をもう一度学び直して「理解」を深めることも大切です。

*「復習」のときには、ノートをあとで見やすいように整理すること(ノート整理)と、計算や問題はすべてもう一度やり直すことをお勧めします。

Q 4 : 第 2 段階の「定着」とは何ですか。

A : (1) 「定着」とは、「うんなるほどとよく『理解』した内容を、スミからスミまで身に着けること」と「定義」します。

(2) 「定着」のためには①「音読練習」、②「書き取り練習」、③「計算・問題練習」の3つの練習が有効です。

(3) 「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の3つの練習を、開倫塾では「定着のための3大練習」と「定義」します。

Q 5 : 「音読練習」とは何ですか。

A : (1) 「音読練習」とは「うんなるほどと一度『理解』したことを、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習をすること」と「定義」します。

(2) もし可能であるならば、「スラスラとよく読める」ようになったら、大事なところだけでOKですから、「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるようになる」までにすること。できれば、「スミからスミまですべて覚える」ことを目指してください。これを「暗誦(あんしょう)」といいます。「暗唱」という漢字を用いる先生もいます。

(3) 音読練習が有効なのは、英語だけではありません。数学や理科を含め全教科に有効です。

(4) 自動車の運転免許証の試験から、司法試験に至るまで、世の中で行われるありとあらゆる国家試験・資格試験にもこの音読練習は極めて有効です。

*できれば、英語の「発音記号」も、ゆっくりでよいですから、何回も音読してスラスラとよく読めるようにしておきましょう。

Q 6 : 「書き取り練習」とは何ですか。

A : (1) 「書き取り練習」とは「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」と「定義」します。

(2) 「筆順」(文字を書く順序)も大切です。

(3) 「何も見ないで書けるようになること」を「暗写」といいます。「暗記」という先生もいます。大切な内容は「暗写」・「暗記」を目指しましょう。このように音読練習をしたら、即、書き取り練習に励みましょう。

(4) 地名や人名、ものの名前など、固有名詞も正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をしましょう。(漢字や英語でも)

(5) 学校時代に習い覚えた語句は一生役に立ちます。また、一生覚えています。ですから、「このことばの書き取り練習をするのは、一生で一回きり、今だけだ」と考えて、気持ちを込めて書き取り練習をしましょう。

Q 7 : 英語の書き取り練習はどうしたらよいのですか。

A : 英語は「ブロック体」だけでなく、ゆっくりでよいですから、「筆記体」でも「美しく書く練習」をすることをお勧めします。

Q 8 : 「計算・問題練習」とは何ですか。

A : (1)これは、「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と読みます。

(2)「計算・問題練習」とは「なぜそのような解答になるかがよく『理解』できた計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」と「定義」します。

(3)ただし、なぜそのような答えになるかについて、よく「理解」していない計算や問題は、答えだけ覚えても、あまり意味がありません。まずは、教科書や学年別参考書などで「理解」に努めてください。どうしてもよく「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生にどんどん質問してください。納得するまで、十分にわかるようになるまで何回でも質問してください。お友達どうしても教え合ってくださいね。

Q 9 : 「定着のための3大練習」をする上で大切なことは何ですか。

A : (1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。

「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、3大検
定毎年合格を可能にする」と考えます。

(2)ただし、「定着のための3大練習」の大前提は、「授業」や「自習(自己学習)」で「定着」させるべき内容が「うなるほど」とよくわかっていること、つまり十分に「理解」していることです。

(3)十分に「理解」していない意味・内容でも、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなこともありますが、「定着のための3大練習」をする前に、内容の「理解」に向けての取り組みを、まずは行うべきと考えます。

(4)「ここに書かれていることは、どのような意味なのか」、また、「なぜこのような解答になるのか」などと、その「意味」や「価値(大切さ)」を十分に「理解」した上で、「定着のための3大練習」を行い、「理解」したことをスミからスミまで身に着けてください。

(5)「定着のための3大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「すべての模擬試験」「3大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」、国家試験、資格試験などでも絶大な効果を発揮します。

(6)更に大切なのは、「授業中に取ったノート」や「意味調べノート」、「間違いノート」、「まとめノート」など、自分で作ったありとあらゆるノートを用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、「ノートをスミからスミまで覚え切る」ことです。

*ですから、覚えやすいように、いつも「ノート」を「整理」し続け、自分にとってのテキスト、「ノートブック」として活用することです。これらはすべて大切な「能力」です。

Q10:「応用」とは何ですか。

- A : (1)「応用」とは、「理解」し、「定着」したことを活用して、「試験でよい点数が取れること」と「社会で役立てることができること」と「定義」します。
- (2)「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること」、「入学試験や検定試験、資格試験、国家試験、採用試験等で合格点が取れること」と「定義」します。
- (3)試験でよい点数を取るためには、「理解」、「定着」を図った上で「過去問」と「予想問題」を繰り返し学習することが最も効果的です。
- (4)「過去問」とは、「その試験で過去に出題された問題」と「定義」します。
- ①多くの試験には「過去問」があります。試験の2～3か月前から「過去問」を数年分、最低でも5～6年分、できれば10年分以上を5～6回繰り返して学習すること。
- ②最低でも5～6年分、できれば10年分以上の「過去問」の「本文」・「設問」・「選択肢」・「解答・解説」のすべてについて、「辞書」や「用語集」、「参考書」を用いて「理解」を図ること。十分に「理解」したあとは、「定着のための3大練習」を徹底的に行うこと。
- ③「間違いノート」と「まとめノート」を作成すること。
- (5)「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。
- ①例えば、開倫塾の「定期試験対策予想問題」、「模擬試験対策予想問題」、「入学試験対策予想問題」、「3大検定試験対策予想問題」などの「的中率」が極めて高いことは、定評があります。
- ②それらを授業などで解き、答え合わせをしたあとで、5～6回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための3大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。
- (6)何年分の過去問に挑戦したらよいかは、試験の難易度によります。また、受験生の熱心さによります。どんな試験でも絶対に合格を目指すなら、最低でも5～6年分、ふつうは10年分以上、熱心な人は15～20年分以上、各々5～6回以上挑戦するようです。

Q11:社会で役立てる「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

- A : (1)すべての科目の学習は、学問体系に従ってでき上がっていますので、積み重ねが大切です。
- (2)ですから、今、学んでいることは、上級学年や上級学校ですべて役立ちます。
- ①小学校で学んだことは、中学校で役立ちます。
- ②中学校で学んだことは、高校で役立ちます。
- ③高校で学んだことは、大学・短期大学・専門学校・大学院で役立ちます。
- ④高校や大学等で学んだことは、すべて社会で役立ちます。
- ⑤ですから、その学年で学ぶことは、その学年で身に着けましょう。
- ⑥今通っている学校で学ぶことは、在学中にすべて身に着けましょう。
- (3)このように、上級学年や上級学校、社会で役立てるためには、学校で今学んでいること、今までに学んだことを、必要に応じて即座に引き出せなければなりません。
- (4)ですから、大切なことは、今、学校や開倫塾で学んでいる教科書・教材・資料・参考書、

授業ノートは絶対に処分しないことです。できれば、すぐに取り出して見られるように、一生にわたって常に身近に置いておくことです。

(5) 高校を卒業後、大学や短期大学、専門学校、職場など、様々なところで学ぶ教科書や教材、ノートなども絶対に処分しないことです。

(6) 何かものごとを考えるときには、ゼロから考えることも大切ですが、教科書やノートなどを用いて、学校で学んだことをもう一度学び直してから考えることは、もっと大切です。

Q12 : 「学力」とは何ですか。

A : (1) 「学力」とは「主体的に学ぶ力」と「定義」します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。

(2) 「学力」が身に着くとどうなるか。

① 「多様な選択肢のある人生」を歩むことができます。

② 「正常に機能する社会」「持続可能な社会」の形成に役立ちます。

* 自分のためにもなるし、みんなのためにもなります。

(3) この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間自己学習」ができる能力を身に着けることが求められます。

(4) 「学習の3段階理論」をやり抜くには、「主体的に学ぶ力」と「ハードな長時間自己学習」が不可欠です。

Q13 : 「ハードな長時間自己学習」ができるのは大切な能力なのですか。

A : (1) その通りです。何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むという意味での「予習」には、膨大な時間が必要です。

(2) ことばの意味を調べるのにも、計算や問題を解くのものにも、ノート整理をするのものにも時間がかかります。

(3) 十分に「理解」した内容について、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をし、楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をし、計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」をするのにも膨大な時間を要します。

(4) 最低でも5～6年分以上、できれば10年分以上の過去問に5～6回挑戦し、「間違いノート」「まとめノート」を作成するのにも膨大な時間を要します。

(5) この「ハードな長時間自己学習」をすることができるのは、大切な能力です。この能力はすぐには身に着きません。しかし、一度身に着けば、この能力は上級学年や上級学校でも、また、社会に出てからも、本気で勉強するとき・本気でものごとに取り組むときに必ず役に立つ能力です。一生役に立つ能力です。

(6) 現代は「知識社会」です。知識が基盤となった社会で生き抜く上での大きなヒントが、学校で学んだ内容の中にたくさん含まれています。

(7) 自覚を持って「主体的に学ぶ」中で、この「ハードな長時間自己学習」を行う能力を少しずつでも身に着けてください。

Q14:「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

A : (1)「本人の自覚」と「先生の力量」だと考えます。

(2)「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかを「自覚」して、「主体的に学ぶこと」が大切だと考えます。

(3)何のためによい学校に進学を希望する人が多いのか。その理由の1つは、よい学校には、自分の潜在能力を伸ばしてくれる「力量のある先生」がいると考えるからだと思います。

Q15: 自覚を持って学ぶにはどうしたらよいかお話しください。

A : (1)①何のために学ぶのか、②何のために進学するのか、③学校を卒業してどのような仕事が見たいのか、④どのような活動が見たいのか、⑤どのような生き方がしたいのかなどを少しずつでも自分の力で考えることです。

(2)その上で、自分の長所や、取り組むべき課題を自分の力で見つけて、よいところはどんどん伸ばす。直したほうがよいところは、少しずつでも直すことです。

(3)そのときに役立つのが、本をじっくりと読むこと、つまり、本格的な「読書」と、「新聞」を毎日一面からなめるように読むことです。

①本を読んでいて心に残った文章や語句があったら、たとえ一行、一文字でもよいですから「書き抜き読書ノート」に書き写すこと。書き写した文章や語句を繰り返し読むと、「思慮深さ」が身に着きます。

②読書によって得られるのは「思慮深さ」です。

(4)「新聞」も役立ちます。

①「新聞は社会の番犬(watch dog ワッチ ドッグ)」です。社会の問題点や課題、素晴らしいこと、みんなに知ってもらいたいことをワンワンと吠えて教えてくれるのが、「新聞」の役割、社会的使命(Mission、ミッション)です。

②新聞を読んで興味、関心を持ったことがあったら、その記事を切り抜き「スクラップブック」にはり付け、何回も読み直すことをお勧めします。

③新聞を読んで身に着く能力は何か。「世界や日本、地域の出来事を知る力」、「自分で考える力」、「批判的思考(critical thinking クリティカル シンキング)能力(これはちょっとおかしいのではないかと自分で考える力)」です。

(5)本や新聞、教科書や教材などを読んでいて、よくわからないことがあったらどうするか。

①「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて意味を調べる。

②調べたことは「意味調べノート」に書き写すこと。

③この「意味調べノート」をいつも1ページ目から読み直すこと。

④このようにして辞書を活用して得られるのは「ことばの力」「語彙(ごい)力」です。「ことばは力」、身に着けている「ことばの数」「語彙数」は「力」です。

(6)「読書」「新聞」「辞書」の活用で得られるのは「読解力」です。読解力こそが「主体

的に学ぶ力」という意味での「学力」の原点で、「自覚を持って学ぶ」ことに直結します。

Q16：本や新聞は、毎日読んだほうがよいのですか。

A：(1)もちろんです。教科の勉強と同じくらい大切なのが、本をじっくりと読むこと、つまり、本格的な読書と、新聞を毎日読むことです。

(2)どんな本を読んだらよいのか。教科書や先生方が紹介して下さる本、できれば、いろいろな分野で長い間読み継がれている本、「古典」とよばれる本を図書館や書店で見つけ、借りたり買ったりしてゆっくりと読む。そして、「時空(じくう、時間と空間)を超えた著作者との対話」を読書の醍醐味としてくださいね。

(3)家で購読している新聞は毎日必ず読む。同時に、時々は、図書館でいつもと違う新聞をじっくりと読む。

*学校の図書室や図書館の活用の仕方も一日も早く身に付けてくださいね。

Q17：最後に好きなことばを教えてください。

A：(1)「会った人は皆友達」(石川洋先生)

(2)「目には遠いが心は近い」(インドのことわざ)

(3)「教育ある人とは学び続ける人、一生学び続ける人」(ドラッカー先生)

(4)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

(5)「健康第一、身体健康と、心の健康を大切に」

*人生は長いのでゆっくりいきましょう。

皆様の好きなことばをあとで教えてくださいね。

— 2016年5月27日林明夫記 —



林明夫

- ・1950年 栃木県足利市生まれ
- ・足利市立山辺小学校、山辺中学校、栃木県立足利高校卒業
- ・慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、29歳まで慶應義塾大学法学部司法研究室研究生アルバイトで予備校・学習塾講師や家庭教師をしながら、司法試験の受験勉強をしておりました。
- ・1979年 足利市百頭町で開倫塾を創業、塾長に就任
- ・1984年 株式会社開倫塾を設立、代表取締役社長に就任。
今日に至っております。

開倫塾は、栃木県、群馬県、茨城県に60校舎を展開中です。小学生・中学生・高校生が対象です。社員数は406名です。ピーク時の塾生数は約7000名。開倫塾は、2002年に栃木県経営品質賞知事賞を受賞し、2009年にハイサービス日本300選を受賞しました。

1998年 世界銀行研究所、1999年ハーバード大学行政大学院国際開発研究所、2002年国立シンガポール大学行政大学院で、各々、民営化短期集中コースを修了。

2000年 栃木県IT経済戦略会議委員

2001年 栃木県経済活性化戦略会議委員

2004年 栃木県社会教育委員(2012年まで)

2006年 学校制度に関する懇談会委員(宇都宮市教育委員会)

2011年 足利市経済活性化諮問会議会長

2011年 足利市英語教育推進プロジェクト会議委員(足利市教育委員会)

現在は、株式会社開倫塾代表取締役社長を務めながら

- (1)学校法人有朋学園 有朋高等学院理事長(福島市)
- (2)マニー株式会社(手術用縫合針製造、東証一部)顧問、社外取締役(2004～2010年)
本社 宇都宮市、現地法人 ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン
- (3)宇都宮大学大学院工学研究科客員教授、作新学院大学客員教授
- (4)社会福祉法人両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑監事(足利市)
- (5)足利商工会議所議員、足利5S学校役員、日本商工会議所教育専門委員会委員
- (6)栃木県生産性本部理事、栃木県サービス産業活性化・生産性向上委員会委員長
- (7)公益社団法人栃木県経済同友会幹事
- (8)公益社団法人経済同友会幹事(東京) サービス産業活性化委員会副委員長
*諮問委員会子どもの貧困・機会格差是正部会 委員
- (9)経済産業省サービス産業グローバル懇談会委員(経済産業省サービス政策課)
- (10)JETRO グローバルサービス塾世話人
- (11)開倫ユネスコ協会会長、日本ユネスコ協会連盟評議員
- (12)OECD IMHE(高等教育管理)プログラムメンバーなどを拝命し活動しております。

東京の公益社団法人経済同友会では、所属の委員会などを通じてかなり熱心に、成長戦略に関する調査・研究、政府への政策提言や報告書の策定活動をしています。

担当する、社会人も含めた勉強の仕方をお伝えするCRT 栃木放送のラジオ番組「開倫塾の時間、林明夫の歩きながら考える」(毎週土曜日9時15分から10分間放送)は、この3月で30年目を迎えました。